

鳥海山山行記録



山頂が見えた

岩の山頂

平野を見下ろす

目的地	鳥海山	期 日	平成21年9月14日(月)・曇のち晴れ(前日現地入り)
山人	笠原正雄、澄子	特 記	前週に月山から眺めた山：映画「おくりびと」の背景の山

地点名	時刻	記 事
与板発(13日)	正午頃	YHC草刈作業を早めに抜けて出発。山形県に入っても曇りでこの山を望むことが出来ない。小雨模様となる。遊佐町あぼんの湯で入浴。鳥海スカイラインを進むうち霧が濃くなり薄暗くなって来た。視界が利かず山荘を探すのに手間取った。
鉾立山荘泊	午後6時前着	他に単独若者と一夫婦。12畳程の部屋に畳。2人で楽々と使う。シュラフ持込み素泊まり、ガスコンロもある調理場使用料100円を含めて約2,800円である。
象潟登山口発	当日朝6:15	山荘を出ると、バスで到着のツアー大団体が大駐車場でストレッチを始めた。中にはおぎなりの者もいる。車道を左に上がって登山口。単独の若女性が先行する。後に同宿夫婦が続く。コンクリートと石を敷いた階段道。10分で鉾立展望台に上る。一枚脱ぐ。山頂方向は霧で見えないが、上空東半分は青空が出ている。
白糸の滝標柱	6:30	左手前方に滝が落ちている。この滝だが、下山時には水が殆ど枯れていた。
賽の河原	7:20	この手前で40人程の前記ツアー一隊を追い越す。広い平坦地に石畳を敷いた道。所々で小沢の流れが横断する。石を敷き詰めた登路が更に続く。
御 浜	7:45~7:55	手前で大平山荘からの吹浦コースとあわせる。御浜神社の表示がある小屋だが、鳥居があるのみで神社らしく無い。鳥海湖が下に見える。風が冷たい。歩き出してすぐ一枚重ね着。
御 田 ヶ 原	8:10	やや上ってこんもりとした所。霧の切れ目から山頂が見えた。ここから少し下る。鞍部に向かって、更にみごとに石畳が敷かれた八丁坂を下る。途中右からの長坂道コースと合わせる。
七五三掛分岐	8:40	単管を組んだ梯子を4段上って分岐。右の外輪山コースに進む。数ヶ所岩場を乗り越えて淵の道となり傾斜が緩む。左下の千蛇谷コースに行くツアー隊が見える。2人男隊とスライド。途中で立ち休み少し食べる。
千蛇谷に下りる	9:50	行者岳と思われる辺りで道標に従い、七高山へは行かず、頂上小屋へ向かう。左折して鉄ハシゴで降りる。谷の中は大きな岩石やヘツリの道で歩きにくい。
頂 上 小 屋	10:05	数人が居たのみで閑散とした感じだった。通過して新山に向かう。すぐに岩場となり、立山の雄山の登りを思い出させる。巨大な岩に挟まれた狭い廊下を下りて再び岩場の登りとなる。朝5時発と言う熟年夫婦とスライドする。男3人が我々とは違うルート取りをして山頂に向かっている。
新 山 山 頂	10:25~10:40	大きな石に当たり、跨いだりして回り込み山頂に着く。狭い山頂、単独者と入れ替わりで上がる。秋田県方向の平野が見える。のち若者3人が来た。対する尾根の七高山に立つ人が見える。しばらく景色を楽しむ。
頂 上 小 屋	11:00~12:00	ここに戻る途中、先のツアー隊が空荷で岩場を登って来た。小屋脇広場のテーブルベンチでランチ。ツアー隊や他の者も加わり賑やかな様子になった。
日差しが暑くなる	12:25	千蛇谷コースを下る。途中でカッターシャツを脱ぐ。
雪 溪 を 渡 る	12:50	10数メートルの残雪溪を渡る。上山者とスライド。
七 五 三 掛	1:00	千蛇谷から尾根筋に登り帰す。
石畳の道になる	1:15	しばらくして、御田ヶ原へ石畳段で登り返す。
御 浜	1:45~1:55	石に腰を下ろし鳥海湖を見下ろして休む。大福を食べる。
登 山 口	3:00	鉾立ビジターセンター前着。このあたりから山頂が僅か見える。
大平山荘入浴		鳥海スカイラインの下り途中の山荘で入浴。清掃中とのことだが、女湯をあけてもらい汗を流す。駐車場隣で数頭の鹿が飼われていた。

昨年、アカデミー賞に輝いた映画「おくりびと」では、背景にこの山がとても美しく映し出されていて、登ってみたいと思った。また、前週にYHC還暦記念登山で、月山から見て更にその思いが募った。七五三掛までは、石畳の道もあり、気楽に歩けた。しかし、山頂付近の火山特有の荒々しさは様相を一変させる山である。

